

国語科の取り組み

テーマ:「こころ」(夏目漱石)のKの自殺の理由について根拠を示して述べる活動から、論理的思考力を育成する。

目標:・本文の記述や調べ学習で見つけた他者の論文などを根拠として、Kの自殺についての考察文を書いて、論理的思考力を身に付けよう。

・友達と考察文を読み合い、主体的に知識を深め、論理的に話し合う力を身に付けよう。

身に付けたい力: ②論理的思考力 ④知識力 ⑩主体性

1. はじめに

国語科では、SPH事業を通して、②論理的思考力④知識力⑩主体性の育成を目指してきた。この3点を単独ではなく、総合的に身に付けさせることを意識して、授業に取り組んでいる。現状、主体的に学習できる生徒は多いが、論理と知識を重視する活動になると、調べ学習や自由な感想を述べる活動に比べ、戸惑いが見られる。

2. 研究内容

- ① 「こころ」(夏目漱石)について、全体のあらすじを、調べ学習も交えながら、生徒に理解させる。
- ② 全体の人物関係が複雑なため、相関図を示して、視覚的に生徒に理解させる。
- ③ Kが苦悩して「私」に相談する公園の場面から、Kが自殺するまでの場面を、小説本文に従って読み進める。
- ④ Kの遺書の最後に書かれている「もっと早く死ぬべきだのになぜ今まで生きていたのだろう」という文句に注目させ、「なぜこのタイミングで自殺したのか」という点を必ず考察に含めた上で、考察文に取り組むように指導する。
- ⑤ 小説本文の中で、Kの自殺に関連があったと思われる部分をまとめさせ、グループ学習で、確認と補足をさせる。
- ⑥ 書籍の持ち込み、インターネットでの調べ学習を認め、主流となっている研究論文、他の高校教師や研究者の解説に触れさせる。
- ⑦ 根拠を示すことを条件とした考察文を書かせる。

3. 取組状況

・生徒にとってスマートフォンは必要不可欠なものとなっているが、その用途がゲームとSNSという者が多く、日常的に検索機能を使いこなしているのは、ごく少数である。どのようなキーワードで検索すればよいのか、1学期に学んだ「メディア・リテラシー」とは何だったか等、ヒントを与えながら、取り組ませた。学力の高い生徒が要領をつかむと、主体的にグループで助け合いながら、意見交換をして取り組んでいた。考察文の前段階となる本文理解についても、グループで確認し合いながら、進めていた。

4. 生徒の感想

- ・国語の試験では一つの答えを聞かれるけれど、それは問題全体で一つの読解を示しているから、それに合わせて答えるということで、特に小説には唯一絶対の正解は無いんだという話が、印象に残った。
- ・インターネットで調べてみると、色々な読み方をしている人がいて、新しい発見があった。Kと「私」が好きだったのは、本当はお嬢さんではなかったという意見が、面白かった。
- ・私は大学に進学するので、自分の意見を根拠を示して述べる授業が、とても勉強になりました。大学の研究室では、このような授業が多いそうなので、様々な視点で考えて、他の人が納得できる根拠を出して、自分の意見を伝えられるようになりたいと思います。
- ・Kが自殺したのは、自分のことを許せないからだと思っていた。他の友達の話を聞いて、考え方はいくつもあるのだと分かった。その考え方の根拠を、整理して伝えることが大切だということも分かった。

5. 考察

インターネット上で、大学の紀要も見られる時代だが、情報に触れることができても、それを理解する読解力が無いと、活かすことができない。論理的思考力をもって、客観的根拠を探しながら、考えを深め、論を高めていくためには、基本的な読解の授業が欠かせない。昨今、教員の講義形式によるインプット、暗記による語彙力向上、楽しさが即座に実感しにくい文法の学習などが、否定されがちな流れがあるように思う。アクティブなアウトプットで論理的思考力を培うためには、一方で、旧来型のインプットとトレーニングが必要だということを見つめ直したい。SPH事業での取り組みを機会に、授業実践でも多くの学びがあった。育てたい生徒像を見据えて、年間の授業計画を国語科全体で考えていく。

6. おわりに

このポスターを見る皆さんへ。小説の読み方に、唯一絶対の真実はありません。だからこそ、読解が妄想にならないように、論理的思考力が必要なのです。